



今月のテーマ
脳死移植

発行所：土川内科小児科
〒245-0003
TEL:0243-22-6688
編集者：土川博

先日衆議院で、臓器移植法案が圧倒的多数で可決され、参議院をそのまま通過すれば、脳死は人の死である」と法律で定められてしまします。今月はこの問題を取り上げてみます。

臓器移植とは、脳全体の動きが失われて、二度と回復しない状態をさします。数日間には心臓が動き続けますが、長くても数週以内には心臓死に至ります。これに対しこれまでの死の三兆候は、心停止・呼吸停止・瞳孔散大でした。

予防接種専用の時間
毎週水曜日を除く午後1:30~2:00
水曜日の午後は予防接種、学校検診などで毎週不在となりますが、通常の診療時間での臨時的予定はありません。

臓器移植をすすめる法案の二つが提出されています。採決の結果、前者は圧倒的多数で否決され、後者は圧倒的多数で可決されました。中には、この矛盾する二つの法案のどちらにも賛成した政治家が八人もいました。この矛盾に満ちた行動をとった方々は、「脳死は人の死とは思えないが移植をすすめるために賛成した」と、脳死は人の死か

医学常識のウソ・ホント?

ときどきご飯が食べられないから点滴をしてほしいと頼まれることがあります。通常外来で行われる点滴に含まれるカロリーは100キロカロリー程度で缶ジュース1本分にすぎません。カロリーを上げるためには、糖の濃度を上げなければならないのですが、糖の濃度を上げると血管炎を起こして血管をダメにしてしまうのです。点滴の中身はイオン飲料にちがいないものですから、吐いて下痢をしているような場合、イオン飲料ものめないような場合には、非常に有効な治療手段となりますが、点滴はご飯の代わりにはなりません。それでも点滴を受けたら元気がでたと言うときには、心理的効果が含まれているように思います。

ことと、法的にさまざまな権利の得失や相続にかかわる死亡時刻をいつにするかなど大きな問題となります(夫と子供が同時に事故に遭ったような場合)どちらの死を先にするかで、相続条件が相当違ってくるようです)

どうかというあまりにも重要な問題を犠牲にしても臓器移植への道を開きたいという考えのようです。当然いろいろの問題点が指摘されています。たとえば、当分の間保険診療を認めるとなっていますが、見直して保険外となってしまうと、脳死と判定されてしまったら、一日一二十万円前後といわれる人工呼吸器を使う費用をはじめ、膨大な医療費を個人で負担しなければならなくなってしまう。さらに脳死を人の死とすること、法的にさまざまな権利の得失や相続にかかわる死亡時刻をいつにするかなど大きな問題となります(夫と子供が同時に事故に遭ったような場合)どちらの死を先にするかで、相続条件が相当違ってくるようです)



今回の決定は臓器移植を推進したいとすることからの決定と思われませんが、脳死を人の死と認めなくても臓器移植への道を開くことは可能なのに、脳死を人の死としてまでもむしやりに臓器移植への道を開こうという姿勢に不安を感じざるを得ません。また政治家の多数決で、こんなに大事なことを決めてしまつていいのかわからない疑問も残ります。臓器提供を望む人の方が圧倒的に少ないと思われる現段階では、一番上の条文の「死亡した者が生存中に臓器の提供の意志を...」のところが、「死亡した者が生存中に脳死状態からの臓器の提供の意志を...」に修正すれば、これまで通り、臓器提供を希望しない多くの脳死は人の死でなくなる訳ですから、いろいろな問題がなくなつてくるのではないかと考えます。脳死を人の死と考えるかどうかは個人の自由であつていいはずですから、もっと議論を尽くして、このような柔軟な案をつくるべきではなかつたかと思えます。私も今回、この記事を書きながらこの問題について考えてみました。非常に複雑な問題なので、自分の考えがなかなかまとまりませんでした。

臓器移植法案の骨子

- *死亡した者が生存中に臓器提供の意志を書面で表示し、遺族が拒まない時、または遺族がいない時は、臓器を死体(脳死体を含む)から摘出できる。
- *脳死体とは、全脳の機能が不可逆的に停止するに至ったと判定された死体をいう。
- *脳死判定の記録を作成、5年間保存。遺族からの要求があれば閲覧させる。
- *臓器売買は禁止する。
- *法施行後、三年をめぐりに再検討する。
- *脳死体への処置は、当分の間医療の給付としてされたものとみなす。

内科豆知識: 今月は高脂血症を取り上げてみます。

高脂血症には大きく分けて、コレステロールが高いもの、中性脂肪が高いもの、両方が高いものの3つの型があります。それぞれ治療方法が違いますが、いずれの場合も自覚症状はありませんが、放置しておくとう動脈硬化が早く進み、心筋梗塞や脳梗塞といった血管が詰まることが原因でおこる重い病気になりやすくなるため、治療が必要となります。まず、食事療法を行い、不十分な場合薬物療法を行うこととなりますが、途中で中断することなく治療を続けることが特に大切です。中性脂肪は150以上、コレステロールは、総コレステロールが220以上、HDLコレステロールが40以下、LDLコレステロールは150以上、このいずれかに該当する場合は、治療が必要と考えてください。糖尿病・肥満・高血圧・心臓病などの持病をお持ちの場合は、これらの数値より低い状態でも治療が必要となります。ちなみに、LDLコレステロールは「総コレステロール - HDLコレステロール - 中性脂肪x0.02」で算出します。もっと詳しく知りたい場合は、子供さんやお孫さんを連れてきたついででもいつでもご相談ください。

結局、私は、「正確に脳死と判定された人がよみがえることはありえないと考えておりますが、脳死を人の死とは思えないと考えるべきではない」と考えています。ですから、やはり心臓が停止した時をその人の死の瞬間と捕らえたいと思つております。もちろん、臓器移植に反対しているわけではありませんが、先に述べたように、生前に脳死状態からの臓器の提供を希望されている人が不幸にも脳死状態になつた場合には、特例として臓器の摘出を行うことは許されていいことだと思つています。ただ、私自身は自分が不幸にも脳死状態からの臓器移植しか助かる道がない難病におかされた場合でも、脳死状態からの臓器移植を望むつもりはありません。皆さんはいかがですか。この機会に一度考えて見てはどうでしょうか。